

（様式6-A）A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

神戸智幸氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Facial aesthetic analysis of prosthetic recovery after partial maxillectomy using a non-contact 3-dimensional digitiser
 (上顎部分切除後の顎義歯による美容的顔貌回復—非接触型三次元表面形状計測装置による解析—)
 The Kitakanto Medical Journal 67(4): 313-322, 2017
 Tomoyuki Kanbe, Satoshi Yokoo, Masaru Ogawa, Yu Takayama,
 Akinori Gomi, Takaya Makiguchi

論文の要旨及び判定理由

背景と目的：本論文の目的は、顎義歯の美容面における客観的評価方法の確立を目的として、上顎部分切除による顔面形態変形と顎義歯装着による顔面形態回復の様相について把握することである。

研究方法：上顎部分切除後の上顎欠損に対して顎義歯治療を行ったAramany分類Class I, IIの21例を対象とした。非接触型三次元表面形状計測装置を用いて、顔面形態を計測し顔面変形および顔面回復の様相について解析を行なった。

結果：上顎部分切除による顔面変形は、垂直方向には鼻下点からオトガイ唇溝まで、側方方向は鼻翼部周辺から頬部前方までの領域における陥凹に起因した変形であることが定量的に証明された。また、Armany分類のClass I, II欠損は、下顔面まで顔面変形を及ぼすことも明らかとなった。顎義歯装着により、患側の顔面組織は上前外側に広げられ、顔貌の左右対称性を改善させる事が定量的に証明された。

結語：本研究結果は顎義歯の形態決定の指標、すなわち医師側と患者側の共通認識の指標になり得る。そして、最終目標としての評価法実用化への第一歩である。本研究は上顎部分切除後の顎義歯による顔面形態変化を非接触型三次元表面形状計測装置により解析した世界最初の報告である。

神戸らの研究結果は日常の口腔顎顔面外科治療に極めて有用であると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 救急医学分野担任	大嶋 清宏	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 生体構造学分野担任	松崎 利行	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 眼科学分野担任	秋山 英雄	印

参考論文

1. Conservative reduction by action of chronic bilateral mandibular condyle dislocation
(陳旧性両側顎関節脱臼に対する非観血的整復法)
Journal of craniomandibular practice 33(2): 142-147, 2015
Ogawa M, Kanbe T, Kano A, Kubota F, Muyazaki H, Yokoo S
2. 中咽頭癌術後に生じた鼻咽腔閉鎖機能不全に対しbulb-PLPを適応した1例
頭頸部癌40(3): 385-340, 2014
五味暁憲, 横尾 聡, 神戸智幸, 河内奈穂子, 宮崎英隆, 牧口貴哉, 近松一郎
3. ビスフォスフォネート関連顎骨壊死・骨髓炎に関する臨床的検討 群馬大学口腔外科28例における考察
有病者歯科医療22(1): 37-47, 2013
神戸智幸, 高山 優, 五味暁憲, 根岸明秀, 横尾 聡